

# 第 4 2 期 事 業 報 告 書

平成14年4月1日 ~ 平成15年3月31日



株式会社島精機製作所

# Ever Onward—



## CONTENTS

- p.2 … 企業理念
- p.3-4 … 社長インタビュー
- p.5 … 決算ハイライト
- p.6 … 営業報告
- p.7-8 … トピックス
- p.9-11 … 財務データ
- p.12 … コーポレート・ガバナンスへの  
取り組み
- p.13 … 株式の状況  
株主優待のお知らせ
- p.14 … 会社概要

# 限りなき前進

全自動手袋編機の開発を創業の原点とする当社は、設立の当初から『世界初』の製品づくりという目標を掲げるとともに、『限りなき前進 Ever Onward』を経営理念とし、創意と工夫により最高機能の製品を経済的な価格でお届けすることを基本に、常に顧客の立場に立ち、ニーズを先取りした製品開発を行ってまいりました。

そして今日、株主の皆さまを始めとした多くのステークホルダーの方々のご支援、ご愛顧により、手袋編機からコンピュータ横編機、デザインシステムにいたるトップメーカーとして、高い評価をいただくまでになりました。

消費者ニーズがますます多様化していく中、これまで培ってきたハードウェア、ソフトウェアの技術力に加え、ノウハウ、デザイン、データまでも含めた総合的なサービスと情報を提供し、ユーザー業界への貢献を通じ、社業の発展を図ることはもとより、生活に欠かせない「衣」の文化形成にも寄与してまいります。

総合メカトロニクス企業として、新世紀においても創業の原点に立ちかえり、新たな『創造』にチャレンジし続ける当社に、より一層のご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 株主の皆さまへ

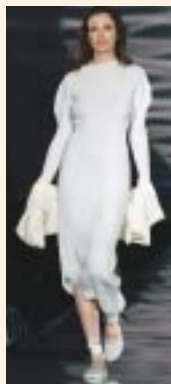
### 第42期の成果と今後のビジョンについて

#### Q．当期の業績について教えてください。

当期の業績は、連結ベースで売上高432億88百万円、利益面では営業利益88億47百万円、経常利益94億96百万円、当期純利益48億78百万円となり、単独ベースでは売上高が415億78百万円、営業利益75億46百万円、経常利益84億20百万円、当期純利益44億97百万円となり、当初予想を上回り増収増益となりました。これは、売上面では、当社の主力製品であるコンピュータ横編機が、積極的な営業活動を展開したことにより、中東のトルコやアジア地域の香港、中国で顕著な増加となった結果であり、利益面では、売上高の増加及びコストダウン効果に伴い、営業利益が大きく伸び、為替も比較的安定した推移となったことから、経常利益、当期純利益とも大幅な増加となったためです。

#### Q．ホールガーメント<sup>®</sup>（無縫製ニット）横編機の普及の状況についてお聞かせください。

当社では95年に世界で初めてホールガーメント<sup>®</sup>横編機を開発し発売しましたが、当初はニットメーカーではこれまでの延長線上の新機種としか捉えていませんでした。ホールガーメント<sup>®</sup>は従来の労働集約型産



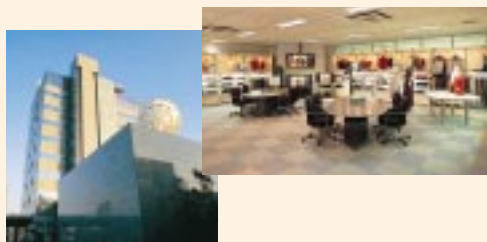
代表取締役社長 島 正 博

業のニット生産とは別世界の知識集約型の編機であり、これまでとは全く違う魅力のある製品ができるのです。ホールガーメント<sup>®</sup>横編機の魅力は、着る人のシルエットにフィットした立体的な三次元のニットが作れることです。私たちはこれを洋服感覚と呼んでいます。今まで織物の洋服でしか表現できなかったものがニットで可能になり、さらにニットならではの柔らかさ、軽さ、ドレープ感などがより一層豊かに表現できるようになったのです。

昨年4月、当社創立40周年の記念イベントとして、国内では最大規模のホールガーメント<sup>®</sup>のファッションショーを開催しました。これには当社のトータルデザインセンターで蓄積してきたオリジナルサンプルとイタリアブランドのホールガーメント<sup>®</sup>を出展し、その限らない可能性に国内外のユーザートップから大変な好評を得ることができました。これを契機に大手アパレルの主力ブランドでもホールガーメント<sup>®</sup>の採用が相次いでおり、新しいファッションが創造されてきています。百貨店ではホールガーメント<sup>®</sup>のフェアが開かれたり、縫製業界でも一部に導入されるなど、今後は急速に普及が進むものと考えています。

### Q・空洞化が懸念されるなか、日本におけるモノづくりについてどのようにお考えですか。

90年に株式上場をさせていただいたとき、日頃から考えていたことをモノづくりのコンセプトとしてまとめました。日本の産業は技術やデザインだけでやっていけるのではなく、モノづくりというしっかりした基盤が必要であると当時から考えていました。その中でも、企業のあるべき姿としては「企画提案型」で「魅力のある商品」を創り出すことが最も重要ではないでしょうか。製造業は単にモノを作っているだけでは成長しません。常に世界にないモノづくりを心がけ消費者にとってメリットがある製品を世に問うていく必要があります。人の心をひきつける機能とセンスを持った画期的な商品であれば、購買意欲をかき立てます。そしてモノづくりには独創性に加え「高感度・高感性」が欠かせません。高い感性に裏付けられた商品には、例えばニットの場合、着心地やフィット感、軽さといった付加価値があります。また個性化、多様化の時代、「多品種少量」にこそ価値が見出され、今後いっそう進展するでしょう。モノづくりを行うとき、常に消費者の立場に立ってニーズを的確にくみ上げる「マーケットイン」で考えることが重要であり、「クイックレスポンス」で対応すれば在庫や売れ残りといった問題も解消することができます。さらに生産や流通の「効率化」やそれを支える「情報化」、そして「平準化」「複合化」を進めることが重要であると考えており、これらのコンセプトは、自分自身や当社の従業員だけでなく、ユーザーや取引先の方々にも提唱しています。



### Q・次期の見通しはいかがでしょうか。

イラクの戦後処理やSARSの影響など不確定要素はありますが、引き続きコンピュータ横編機が中東やアジア市場で堅調に推移する見込みです。また本年10月にはイタリア・ミラノで国際的な編機の展示会である



I K M E展が開催されますので、ホールガーメント®の全世界への浸透に全力を傾注します。次期の業績は連結ベースで、売上高445億円、営業利益97億円、経常利益95億円、当期純利益50億円となる見通しであります。

### Q・中長期的な経営戦略および株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

当社の売上構成は85%以上を輸出が占め、販売先は全世界にわたります。為替変動による利益面への影響が懸念されますが、円建取引比率の向上や為替予約等、組織的なリスクヘッジ体制を敷いております。中長期的には、コンピュータ横編機業界でのシェアアップ、ニット・アパレル業界へのデザインシステムの積極的な提案、手袋靴下編機のマーケット拡大、高収益体質の構築、リスク管理体制の構築を、重要な経営目標とし、安定的な成長を目指しております。

さらに株主のみなさまに対する利益還元を重要課題と位置付け、利益配分や今後の成長を確保するための内部留保等を積極的に実施していきたいと考えています。

株主のみなさまにおかれましては、これまでと同様より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

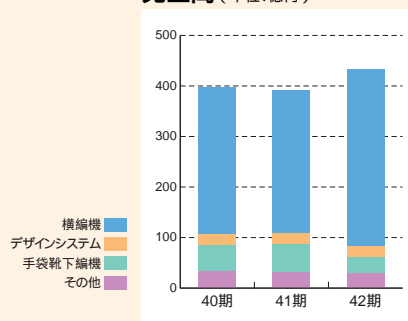
# Financial Highlights

## 決算ハイライト

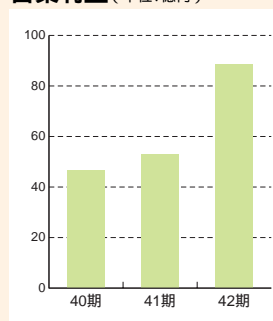
	連 結		単 体	
	当 期 (平成15年3月期)	前 期 (平成14年3月期)	当 期 (平成15年3月期)	前 期 (平成14年3月期)
売 上 高 (百万円)	43,288	39,096	41,578	36,369
営 業 利 益 (百万円)	8,847	5,281	7,546	4,339
経 常 利 益 (百万円)	9,496	6,049	8,420	5,438
当 期 純 利 益 (百万円)	4,878	3,060	4,497	2,775
1 株 当 たり 当 期 純 利 益 (円)	129.61	81.61	119.44	74.00
総 資 産 (百万円)	96,220	92,548	91,658	87,454
純 資 産 (百万円)	84,419	81,734	79,760	77,311

## 業績の推移 (連結)

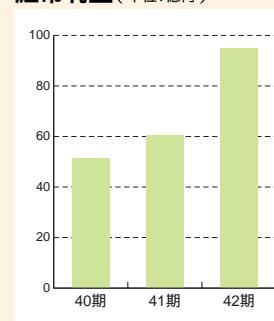
売上高 (単位: 億円)



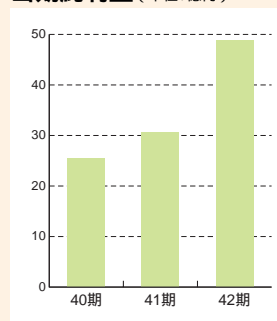
営業利益 (単位: 億円)



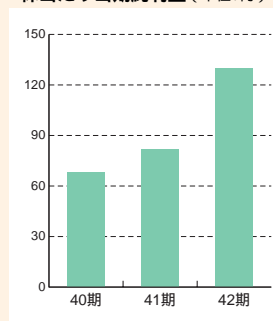
経常利益 (単位: 億円)



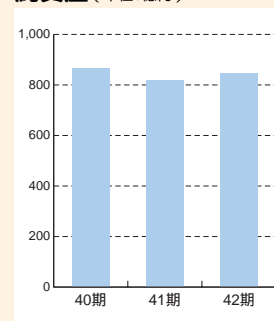
当期純利益 (単位: 億円)



1株当たり当期純利益 (単位: 円)



純資産 (単位: 億円)



## 営業活動のご報告（連結）

### 横編機部門

当社のコア・ビジネスである横編機事業では、昨年4月の当社創立40周年事業である「ホールゲーム<sup>®</sup>・ファッションショー」を契機に、国内外でホールゲーム<sup>®</sup>の評価が高まっており、大手アパレルでも主力ブランドへの採用が進んでおります。当社ではホールゲーム<sup>®</sup>の特性を活かし、今までにない魅力のあるサンプルを始めとする、独自のノウハウ、デザインさらにはデータまでをトータルサポートすることで、市場への浸透を推進してまいりました。

海外市場では、イタリアをはじめとするヨーロッパやアメリカ市場での減速はありましたが、ロシアなどへの輸出に加え内需が活発なトルコでは、従来機種を中心に大幅に売上を増加させました。さらにアジア市場でも、中国が先進諸国の生産拠点に加え、旺盛な内需に対して設備投資が進み、香港でも下期に入り需要が伸びるなど高水準の売上を維持した結果、海外売上高は前期に比べ増加しました。

国内市場では、本社のトータルデザインセンターを中心に、東京・大阪のコミュニケーションスペースと連携しながら、業界の活性化を図るため企画提案型の営業活動を進めたことにより、国内売上高は前期比増加しました。

横編機事業全体としては、海外、国内とも前期の実績を上回ったことにより、過去最高の販売台数を記録し、売上高は348億72百万円（前期比23.8%増）となりました。



**SWG - FIRST**  
無縫製型コンピュータ横編機



### デザインシステム部門

デザインシステム関連事業では、ALL in ONE コンセプトのもと、ニット・アパレル業界のコミュニケーションツールである「SDS - ONE」の販売に注力し、デザインから商品提案、生産面における高速化、省力化を実現する高機能と操作性が高く評価されたことで販売台数を伸ばし、海外、国内市場とも堅調な推移となった結果、売上高は23億60百万円（前期比10.9%増）となりました。



**SDS - ONE**  
デザインシステム

### 手袋靴下編機部門

手袋靴下編機事業では、前期まで好調であった韓国などのアジア諸国を中心とした海外市場の需要が一巡し、国内市場でも依然として売上の低迷が続いたことにより、売上高は31億35百万円（前期比45.2%減）となりました。



**NewSFG**  
シームレス手袋編機



## トピックス

### ファッション情報産業の創出 ～ホールガーメント<sup>®</sup>の新展開～

当社は従来の労働集約型であった繊維・衣服産業を知識集約型であるファッション情報産業へと転換を図るための提案を続けております。

まず、社内の意識改革を行いました。ホールガーメント<sup>®</sup>の売り手である当社が、知識集約型産業への転換のための視点を持って迅速に行動することが必要であると考えたからです。

例えばホールガーメント<sup>®</sup>の特徴である無縫製は確かにコストダウンにつながります。しかし、それをベースに商品作りをすると多くの商品がたどってきたようにニット製品も均一化され、価格のみの競争におちいります。

ホールガーメント<sup>®</sup>は従来のセーターなどの二次元的な商品ではなく、体の線に合わせ立体的にデザインした三次元の商品であり、革新的なニットウェアなのです。



この点を踏まえ、当社は、ホールガーメント<sup>®</sup>の特性を活かした魅力のある商品づくり、価格に裏付けされた付加価値の創造など、新しいモノづくりのあり方の提案に努めてきました。

フレアが広がるワンピースなど従来型の商品ではない、洋服感覚の新しいコンセプトの商品の提案などにより、アパレル業界からも大変高い評価を受けています。これにより、ニット業界とアパレル業界の境界が取り払われ、ファッション性が豊かであり、軽量で着ごちがよいなど様々なメリットを消費者にもたすことができます。

当社では今後もホールガーメント<sup>®</sup>を駆使した新商品を通じて、新しいファッションを創出し、繊維業界における革命的な業態転換を促してまいります。





## 2003 Pitti Bimbo 特集

2003年1月、イタリア・フィレンツェで子供服の展示会Pitti Immagine Bimboが開催されました。

Pitti Immagineではここ数年、当社は横編機メーカーとして糸のトレンドに合わせた最新技術を披露してきましたが、乳児・幼児・子供・妊婦のファッショントレンドを展開するPitti Bimboへの出展は今回が初めての試みでした。

ホールガーメント<sup>®</sup>は、その細部にまで着心地、動きやすさ、耐久性といった子供服の日常的不可欠な要素を追求し、クリアしているだけでなく、高度な編成方法による品質の高さ、高級なヤーンへの対応など、こだわりを持った親子のニーズを十分に満足させてくれることは間違いありません。



イタリア代理店Orsi社とイタリアの優秀なニットデザイナーの協力により、今回のPitti Bimboでは2つのデザインコンセプトのもと最新のニットテクノロジーによって創られたボーイズとガールズのためのミニコレクションを展示し、ホールガーメント<sup>®</sup>に対し業界からの高い評価を得ることができました。



Who's Afraid of the Big Bad Wolf?  
by Elementi Moda



Small Winter Flowers  
by Sunflower Style

# Financial Data

## 財務データ（連結）

### 連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成15年3月31日現在	平成14年3月31日現在
<b>流 動 資 産</b>	63,939	60,957
現金及び預金	10,173	10,763
受取手形及び売掛金	42,705	38,759
たな卸資産	10,411	10,300
その他の	1,823	1,576
貸倒引当金	1,174	442
<b>固 定 資 産</b>	32,280	31,591
有形固定資産	18,767	18,935
建物及び構築物	6,414	6,752
土地	10,264	10,267
その他の	2,088	1,916
無形固定資産	132	139
投資その他の資産	13,380	12,516
投資有価証券	4,446	3,275
再評価に係る繰延税金資産	4,530	4,677
その他の	5,463	6,317
貸倒引当金	1,060	1,753
<b>資 産 合 計</b>	96,220	92,548
<b>流 動 負 債</b>	10,080	9,126
支払手形及び買掛金	4,521	4,473
未払法人税等	2,411	1,552
賞与引当金	671	651
その他の	2,475	2,448
<b>固 定 負 債</b>	1,542	1,470
退職給付引当金	1,542	1,470
<b>負 債 合 計</b>	11,622	10,597
<b>少 数 株 主 持 分</b>	178	217
<b>資 本</b>	14,859	14,859
資本金	21,724	21,724
利益剰余金	56,241	52,513
土地再評価差額金	6,675	6,528
その他の有価証券評価差額金	164	261
為替換算調整勘定	85	58
自己株式	1,481	632
<b>資 本 合 計</b>	84,419	81,734
負債、少数株主持分及び資本合計	96,220	92,548

### 連結損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成14年4月1日から平成15年3月31日まで	平成13年4月1日から平成14年3月31日まで
<b>売 上 高</b>	43,288	39,096
売上原価	23,200	22,938
<b>売 上 総 利 益</b>	20,088	16,157
販売費及び一般管理費	11,241	10,876
<b>営 業 利 益</b>	8,847	5,281
営業外収益	741	858
受取利息	206	343
為替差益	363	387
その他の	171	128
営業外費用	91	90
支払利息	37	5
その他の	54	85
<b>経 常 利 益</b>	9,496	6,049
特別利益		80
特別損失	695	917
<b>税金等調整前当期純利益</b>	8,800	5,212
法人税、住民税及び事業税	3,655	2,471
法人税等調整額	289	319
少数株主損失	22	0
<b>当 期 純 利 益</b>	4,878	3,060

### 連結剰余金計算書

（単位：百万円）

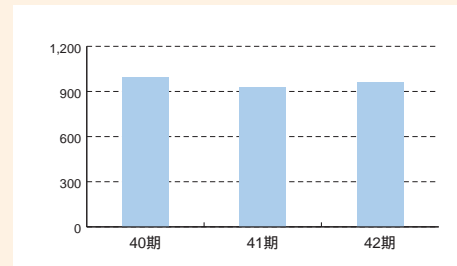
科 目	当 期	前 期
	平成14年4月1日から平成15年3月31日まで	平成13年4月1日から平成14年3月31日まで
<b>資 本 剰 余 金 の 部</b>		
資本剰余金期首残高	21,724	21,724
資本剰余金期末残高	21,724	21,724
<b>利 益 剰 余 金 の 部</b>		
利益剰余金期首残高	52,513	50,610
利益剰余金増加高	4,878	3,060
当期純利益	4,878	3,060
利益剰余金減少高	1,150	1,157
配当	1,119	1,127
役員賞与	31	30
利益剰余金期末残高	56,241	52,513

## 連結キャッシュ・フロー計算書

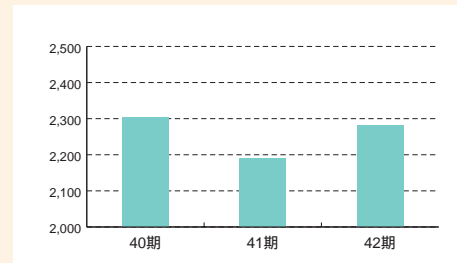
(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで	平成13年4月1日から 平成14年3月31日まで
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	8,800	5,212
減価償却費	1,031	1,087
受取利息及び受取配当金	240	356
売上債権の増加額	4,077	588
たな卸資産の減少額(増加額)	191	1,178
仕入債務の増加額(減少額)	204	1,008
その他	744	733
小計	6,271	6,258
利息及び配当金の受取額	244	359
利息の支払額	37	5
法人税等の支払額	2,800	2,653
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,677	3,958
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の減少額(純額)	309	247
有価証券の減少額(増加額)(純額)	39	95
有形固定資産の取得による支出	767	796
有形固定資産の売却による収入	6	185
投資有価証券の取得による支出	1,570	275
投資有価証券の売却による収入	22	13
その他	119	174
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,919	705
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の減少額(純額)	10	500
長期借入金の返済による支出	0	7
自己株式の取得による支出	848	632
配当金の支払額	1,118	1,127
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,977	2,266
現金及び現金同等物に係る換算差額	59	140
現金及び現金同等物の増加額(減少額)	279	1,127
現金及び現金同等物期首残高	10,246	9,119
現金及び現金同等物期末残高	9,966	10,246

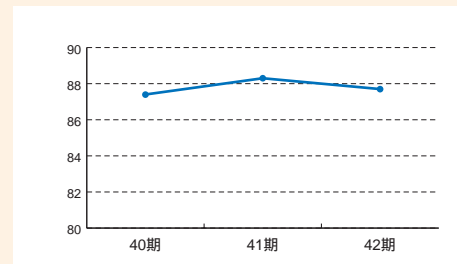
## 総資産(単位:億円)



## 1株当たり株主資本(単位:円)



## 株主資本比率(単位:%)



## 財務データ（単体）

### 貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成15年3月31日現在	平成14年3月31日現在
<b>流 動 資 産</b>	58,868	55,416
現金及び預金	6,311	6,627
受取手形及び売掛金	42,668	39,102
たな卸資産	9,478	8,910
その他	1,479	1,128
貸倒引当金	1,070	352
<b>固 定 資 産</b>	32,790	32,038
有形固定資産	17,268	17,532
建物及び構築物	5,899	6,186
土地	10,025	10,025
その他	1,343	1,320
無形固定資産	122	129
投資その他の資産	15,399	14,376
投資有価証券	4,231	3,054
関係会社株式	2,471	2,471
再評価に係る繰延税金資産	4,530	4,677
その他	5,225	5,923
貸倒引当金	1,059	1,750
<b>資 産 合 計</b>	91,658	87,454
<b>流 動 負 債</b>	10,550	8,857
支払手形及び買掛金	5,718	4,673
未払法人税等	2,002	1,430
賞与引当金	571	552
その他	2,257	2,200
<b>固 定 負 債</b>	1,347	1,285
退職給付引当金	1,347	1,285
<b>負 債 合 計</b>	11,897	10,143
<b>資 本</b>	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724
資本準備金	21,724	21,724
<b>利 益 剰 余 金</b>	51,497	48,149
利益準備金	2,124	2,124
任意積立金	43,358	41,847
当期末処分利益	6,014	4,177
土地再評価差額金	6,675	6,528
その他有価証券評価差額金	164	261
自己株式	1,481	632
<b>資 本 合 計</b>	79,760	77,311
<b>負 債 及 び 資 本 合 計</b>	91,658	87,454

### 損益計算書

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成14年4月1日から平成15年3月31日まで	平成13年4月1日から平成14年3月31日まで
<b>売 上 高</b>	41,578	36,369
<b>売 上 原 価</b>	23,856	22,253
<b>売 上 総 利 益</b>	17,722	14,116
販売費及び一般管理費	10,176	9,776
<b>営 業 利 益</b>	7,546	4,339
営業外収益	1,022	1,243
受取利息	156	253
為替差益	339	505
その他	526	484
営業外費用	148	144
支払利息	36	4
その他	111	139
<b>経 常 利 益</b>	8,420	5,438
特別利益		71
特別損失	682	915
<b>税 引 前 当 期 純 利 益</b>	7,737	4,594
法人税、住民税及び事業税	3,112	2,189
法人税等調整額	128	369
<b>当 期 純 利 益</b>	4,497	2,775
前期繰越利益	2,076	1,966
中間配当額	559	564
<b>当 期 未 処 分 利 益</b>	6,014	4,177

### 利益処分

（単位：円）

科 目	金 額
当期末処分利益	6,014,838,770
特別償却準備金取崩額	5,625,196
<b>計</b>	6,020,463,966
これを次のとおり処分いたしました。	
利益配当金	739,787,800
（1株につき20円）	
役員賞与金	50,000,000
（うち監査役賞与金）	（ 2,100,000 ）
別途積立金	3,000,000,000
<b>次 期 繰 越 利 益</b>	2,230,676,166

（注）1. 平成14年12月4日に559,759,350円（1株につき15円）の中間配当を実施しました。

2. 特別償却準備金の取崩は、租税特別措置法の規定に基づくものであります。

## コーポレート・ガバナンスへの取り組み

### ～健全性・透明性の向上のために～

当社では、コーポレート・ガバナンスは株主の利益を重視した経営を行うためにも重要な要件であると考え、従来の取締役会制度および監査役制度等の機能を十分に発揮させることにより、適正なコーポレート・ガバナンスが実施できる体制を構築しております。

取締役会は、正確に状況を把握し、迅速かつ柔軟に経営判断できるよう必要最少人数での構成を基本としており、現在は取締役11名で構成しております。毎月1回以上を原則として必要に応じ適宜開催し、重要事項の付議だけでなく業績の進捗についても議論し、方針を決定しております。

さらに当社では監査役制度を採用しており、3名の監査役の内、社外監査役は1名（非常勤）です。監査役は、取締役会に出席するとともに、取締役からの個別ヒアリングを含め積極的な情報収集に努め、取締役の職務執行を十分に監視できる体制となっております。あわせて、内部監査室を設置しており、随時必要な内部監査も実施しております。

また、会計監査人による監査が当社において適正に実施されるよう、引き続き社内環境の整備に努めてまいります。

今後もこうした基本方針を踏襲しつつ、より一層の経営の健全性・透明性の向上を図るとともに、経営体質の強化を進め、将来の事業展開を助産し、管理者層の育成充実に努めてまいります。

### 当社ホームページ・IR情報のご紹介



当社ホームページでは、財務情報をはじめ、さまざまな情報を公開しています。

#### 決算短信などの財務情報



決算ハイライト

当社の特色のひとつであるオリジナルの株主優待。これまでの内容をホームページでご覧いただけます。



財務情報等の公開用ホームページアドレス...  
<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>

# Stock Information

## 株式の状況(平成15年3月31日現在)

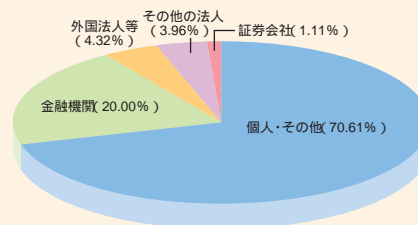
### 大株主

株主名	持株数	議決権比率
島 正 博	5,200千株	14.08%
後 藤 明 史	2,640	7.15
島 三 博	1,980	5.36
株式会社UFJ銀行	1,380	3.73
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,213	3.28
和島興産株式会社	1,130	3.06
シマセイキ社員持株会	1,052	2.85
島 節 子	995	2.69
島 和 代	750	2.03
株式会社紀陽銀行	708	1.92

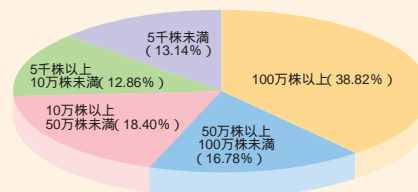
### 株式の状況

会社が発行する株式の総数 ...142,000,000株  
 発行済株式の総数 .....37,600,000株  
 当期末株主数 .....14,089名

### 所有者別分布



### 所有数別分布



## 株主優待のお知らせ

当社では毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しております。

今3月期の株主優待につきましては、イタリアワインをお届けいたします。

イタリア半島の中央部、「イタリアの緑のハート(心臓)」と呼ばれるウンブリア州の豊かな自然が育んだワインをご賞味下さい。

お届けの時期につきましては、平成15年9月～10月頃を予定しております。



#### お届けの内容

- 100株以上 ワイン1本
- 1,000株以上 ワイン2本
- 3,000株以上 ワイン1本とレース製品

なお、9月末日現在の単元株主様には、当社グループ企業が経営する南紀白浜「ホテル マーキーズ」、「マーキーズ サウステラス」の宿泊優待割引券を進呈いたします。(お届けは12月頃を予定)

## 会社概要

### 会社概要(平成15年3月31日現在)

商号	株式会社 島精機製作所
英訳名	SHIMA SEIKI MFG., LTD.
本社	和歌山市坂田85番地
創立	昭和37年2月4日
資本金	148億5,980万円
従業員	1,004名
事業内容	コンピュータ横編機 シームレス手袋編機、靴下編機 コンピュータデザインシステム ニットCADシステム アパレルCAD / CAMシステム

### 役員(平成15年6月27日現在)

役名	氏名	担当または主な職業
代表取締役社長	島 正 博	
常務取締役	田 中 雅 夫	経理部長
常務取締役	村 元 勝	輸出部長
取締役	岩 倉 煌 一	企画部長
取締役	京 谷 実	生産技術部長兼システム生産技術部長
取締役	有 本 博 行	資材部長
取締役	森 田 敏 明	メカトロ開発部長
取締役	和 田 隆	製造技術部長
取締役	後 藤 明 史	営業部長兼トータルデザインセンター部長
取締役	島 三 博	システム開発部長
取締役	片 桐 正 二 郎	総務部長
常勤監査役	大 川 修	
常勤監査役	沖 殿 俊 幸	
監査役	的 場 悠 紀	弁護士

(注) 監査役 的場悠紀は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

### 事業所(平成15年6月27日現在)

本社	和歌山市坂田85番地
支店	東京支店(東京都中央区) 大阪支店(大阪市北区) 名古屋支店(名古屋市中区) 泉州支店(大阪府泉大津市)

営業所	山形営業所(山形県山形市) 福島営業所(福島県伊達郡保原町) 新潟営業所(新潟県五泉市) 甲府営業所(山梨県中巨摩郡昭和町) 四国営業所(香川県東かがわ市)
海外支店	台北支店

## 株主メモ

決算期	毎年3月31日
配当金受取株主確定日	利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	毎年3月31日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告して定めます。
公告掲載新聞	日本経済新聞

当社は、貸借対照表および損益計算書を、日本経済新聞に掲載しておりました決算公告に代えて、ホームページに掲載することといたしましたので、お知らせいたします。  
当社のホームページアドレスは次のとおりです。  
<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>

### 株式事務取扱場所

名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号  
UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
UFJ信託銀行株式会社  
大阪支店証券代行部  
電話(06)6229-3011(代表)

同 取 次 所 UFJ信託銀行株式会社全国本支店  
株式関係のお手続き用紙のご請求は、次のUFJ信託銀行株式会社の  
電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル) 0120-24-4479(本店証券代行部)  
0120-68-4479(大阪支店証券代行部)  
インターネットホームページ <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

# SHIMA SEIKI

株式会社島精機製作所  
和歌山市坂田85番地

URL <http://www.shimaseiki.co.jp/>